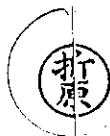




2024 年度

一般財団法人東京都スキー連盟加盟団体長会議

議事録



日時 2024年6月2日(日)

場所 練馬文化センター 小ホール

## 2024 年度加盟団体長会議

- 1 日 時 2024 年 6 月 2 日 (日) 12 時 30 分～14 時 00 分
- 2 場 所 練馬文化センター 小ホール
- 3 出席者 加盟団体現在数 414 団体  
出席加盟団体数 89 団体
- 出席理事 和田 守義、長谷川 春彦、栗飯原 勉、本橋 領、金子 奈々、山崎 智広、  
濱松 直親、春見 靖夫
- 出席監事 本田 秀次、生越 啓史

### 4 議 事

午後 0 時 30 分 開会

#### 1. 開会宣言

○栗飯原総務本部長 定刻になりました。2024 年度、令和 6 年度の一般財団法人東京都スキー連盟加盟団体長会議を開かせていただきます。

#### 2. 会長挨拶

○栗飯原総務本部長 一般財団法人東京都スキー連盟会長・和田より御挨拶申し上げます。

○和田会長 皆さん、こんにちは。お休みの中、お忙しい中御足労いただきまして、ありがとうございます。

楽しかったシーズンもあっという間に終わってしまったという感じがいたしますが、皆様方のクラブの行事等々はいかがでございましたでしょうか。今年も例年と同じように雪不足、雪の状態が非常に不安定で、行事を計画しているほうがやきもきしたというような状況ではなかったかなと拝察いたしますが、それでも何とか都連のほうの行事は滞りなく終了できたという報告を受けております。皆様方のクラブのほうもつつがなく行事が終了したのではないかなと思っています。

ただ、何分にもスキー人口がなかなか増えてこないというか、むしろじりじりじりじりと減少しているような状況ではないかなと思っています。何とかこの辺を皆様方のクラブと協力しまして、少しでもスキー人口が増えていくようにいろいろなことを我々は考えていかなければならないかなと思っていますので、どうぞこれからも皆様方の忌憚のない御提案・御意見を頂戴しながら東京都スキー連盟としてもいろいろな行事を計画・実施していかなければ

ればならないと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、それほど長い時間ではございませんが、ぜひいろいろな御提案・御要望を頂きながらこれからの都連の行事でいろいろなことを考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

### 3. 出席役員の紹介

○長谷川専務理事 役員及び監事の紹介があった。なお、達下副会長、岡田理事、保坂理事、原田監事が所用の為、欠席となっております。

### 4. 第77回クラブ対抗競技会の団体表彰

○山崎常務理事兼競技本部長 第77回東京都スキー連盟クラブ対抗競技会総合成績の表彰式を始めさせていただきます。

総合成績上位10団体が、和田会長から表彰された。

第1位、ディップススキークラブ(欠席)

第2位、若葉スキークラブ。

第3位、苗場ベーシック&レーシングクラブ

第4位、世田谷区スキー協会。

第5位、武蔵野市スキー連盟。

第6位、練馬区スキー協会。

第7位、新宿スキークラブ。

第7位、チロルススキークラブ。

第9位、特別区職員文化体育会スキー部

第9位、八王子スキー連盟

### 5. 議長及び副議長挨拶

○栗飯原総務本部長 議長、副議長は加盟団体等規則に関する規則第14条に基づき、議長には会長、副議長となっておりますが、達下副会長が欠席の為、長谷川専務理事といたします。

○和田議長 議長をやらせていただきます和田でございます。

規約では議長には会長、副議長には副会長というふうになってはいますが、会長・副会長に事

故ある場合は専務あるいは常務理事の中から任命するという形になっていて、先ほど説明がございましたように本日は副会長の達下が所用で欠席ということで、副議長を専務の長谷川が務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それと、議事に入る前に1つお願いであります、御発言していただく場合には所属のクラブ名と名前を言っていただいた上で御発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○長谷川副議長 会長から説明あったように今日は副会長の達下が所用で不在の為、規則に則って長谷川が副議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 6. 書記指名

○和田議長 書記は原田総務専門員にお願いしたいと思います。

## 7. 議事録署名人指名

○和田議長 議長より2名の方が指名された。

議事録署名人 43 ジーゲル・グループ 団体長 折原 正英

686 ラディッシュスキークラブ 団体長 佐藤 祥三

## 議 題

### (1) 2024 年度事業（雪上）の報告等について

○和田議長 「2024 年度事業（雪上）の報告等について」ということで、担当の理事の方はお願いします。

○山崎競技本部長 今シーズンは非常に小雪の中でシーズンが始まりまして、1月に開催をした東京都選手権及び国スポの予選会で、当初の予定コースよりもコースを短くして何とか開催できたというところに始まり、ジュニア向けのトレーニング会、あとは尾瀬戸倉の FIS Masters と、1月中の行事に関してはコースレイアウトの変更あり、また大会行事の中止という状況となっております。

ただ、2月以降、国スポも非常に小雪の中だったのですけれども、現地の努力も含め、2月から3月に向けての降雪ということで、それ以降の行事についてはほぼ予定どおり開催ができ、無事全ての行事、4月末のジュニアのキャンプをもって全ての行事が終了したという形になっております。

特に大きな問題もなくシーズンを通してうまく終了したということと、まずは御協力いただいた専門員の皆様、あと各大会に御参加いただきました各クラブの皆様については東京都スキー連盟の行事の運営に多大な御協力いただき、本当にありがとうございました。

また、来期のほうも同じように競技・大会を計画していきますので、また変わらぬ御支援、御協力のほどをよろしくお願いいたします。

○金子教育本部長 日頃より本連盟教育本部の運営並びに活動への御理解・御協力、ありがとうございます。

今年度は、コロナも5類になって、コロナ禍前に戻ったようなシーズンになったと思います。また、多くの専門員をはじめ、関係団体の皆様においても多大な御協力に感謝を申し上げます。

先ほど競技本部からもありましたけれども、このシーズンは本当に雪が少なく、12月の研修会は開催も危ぶまれた、結構心配な週末を送っていました。それでも12月の研修会Cの菅平会場、定員700名いっぱいのお申込みをしていただきました。デモの協力の下、研修会を行うことができました。

また、新しい試みとしては、2月に研修会を実施いたしました。そちらのほうは雪の心配もなく、開催ができました。研修会自体はA~Hまでの7回の研修会を無事に終了することができました。

大会ですけれども、ジュニアマスターズは例年のように、片品大会ですと、菅平大会に関しては、昨年よりも時期を早めて開催することができまして、雪を心配することなく、よいコンディションで開催できました。

東京都予選会は菅平から高峰高原マウンテンパークに会場を移しまして、スキー場の皆様、地元の皆様、また選手、サポートの皆様の御協力を得て、大変よい大会となりました。

準指検定会なのですけれども、2回の養成講習会、レベルアップ講習会などでトレーニングを重ねていただき、186名の受検者の30%ほどの方が合格となりました。

○和田議長 ただいま雪上行事に関する御報告をいたしました。この件に関して何か御質問等ございましたらお願いいたします。

御質問がないようでしたら雪上の事業報告をこれで終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

## (2) 2024年度加盟団体からの提案・要望について

○和田議長 (2) 番の「2024年度各加盟団体からの提案・要望について」ということで、提案・要望書に関しては競技本部関係が3通、教育本部関係が1通、それから総務本部関係が

2 通来ておりました、合計 6 通の提案・要望がございます。

逐次やっていきたいと思いますが、まず競技本部のほうからいきたいと思います。

団体ナンバー49 番、団体名・三鷹市スキー連盟、団体長名・辻口誠一様、競技関係の要望ということで、「公認大会の運営方法改善に関する検討結果の報告依頼」ということが出ていますが、辻口団体長様のほうから補足というか、説明がございましたらお願いしたいと思いますが、よろしくお願ひします。

○三鷹市スキー連盟（辻口団体長） 49 番・三鷹市スキー連盟の辻口ですけれども、これは順番としては、御回答を競技本部長から頂いてから何かコメントするわけではなくて、先にコメントしてよろしいのですか。これは御回答していただいたという前提でコメントしてよろしいのでしょうか。

○和田議長 要望に関して補足があればということで、なければ結構です。回答のほうをいたしたいと思います。

○三鷹市スキー連盟（辻口団体長） 回答を先にお願ひいたします。

○和田議長 それでは、競技本部、よろしくお願ひいたします。

○山崎競技本部長 「公認大会の運営方改善に関する検討結果の報告依頼」ということで、2 年前の日本アルペン様の件からの引き続きということだと思っておりますけれども、まずお求めいただいたのが「試行の概要」、「改善された点」、「問題点や課題」、④「今後の方針を含む検討結果を具体的な検討過程（SAT 理事会で検討したのか、競技本部で検討したのか、担当理事の個人的な判断か等）も含めてわかりやすくご報告」ということで、お話をさせていただきます。多少順番が前後するということも発生しますが、お話をさせていただきます。

まず記載いただいている今年の議事録ですか。当時の辞任された前競技本部長の御発言かと思いますが、まずここでビデオ撮影を試行すると言ったことについては、競技本部内または理事会等で検討したものではなく、あくまで前本部長の個人的な見解となっております。実際に要望いただいてからビデオ撮りの検討というのは全くされていなかった中で、牧田前本部長が今年のこの会議の中で試行と言ったときに、御本人のコメントで言うと、「やるかどうかを確認することも試行で」というようなコメントをされていましたが、ここに記載のとおりビデオ撮りをするよというコメントだったと私自身も記憶しておりますが、重ねて言いますが、こちらはあくまで検討した結果ではありません。あくまで個人的な前本部長の見解となっております。

実際に試行の概要として、前本部長が辞任された後、改めて競技本部のアルペン部会のほうで検討させていただいて、まず定点的な観測、ビデオを競技場内に設置してというのは、

何かあったときの安全面の観点からもやはり非常に難しいでしょうと。人の手を介在しないものを設置するというのはやはり難しく、特にコート内は難しいのではないかとということで、改めて日本アルペン様の件も含め、公認大会様も含め、ルール遵守を徹底する方向ということでお願いさせていただいて、対応とまずはおこなっております。

2番「改善された点」ということに対して、今年は公認大会が4大会ございました。全中予選だけは国スポの予選会と重なってしまっていて行けなかったのですが、まず各大会を見せていただいて、まず問題なく運営されていたよということと、日本アルペン様の大会について、会場を高峰高原のほうに移し、スキー場及びスキースクール、こちらにも記載しておりますが、全面バックアップの大会となっております。

旗門員なども、どこかのアルバイトとか宿のアルバイトとかの方が来て、慣れていない方が何となく入っているわけではなくて、スキースクールのスタッフの方が全員担当で、経験が少ない方に対しては経験のある方が都度フォローに回るといような、非常に連携も取れた大会となっております。

また、ほぼ運営のスタッフに競技本部の専門員の方に入らせていただいて、実際には東京都スキー連盟で主催して実施している大会と遜色のない運営となっていたことも確認しております。

また、抗議時の連絡ルート、何か受けたときには必ずジュリーメンバーに報告するということ、競技の開始前、途中にも必ず何かあったらジュリーに報告するということ、再三のスタッフ内でも注意喚起がされておりました。そのため、一昨年、要望を上げたけれども、案内がなかったとか、そういったところの問題点については、ルール遵守及び内部連絡の徹底ということで解消されたと判断をしております。

「問題点や課題」というところについても、以前頂いた問題点については、ルール遵守というところで解決ができたのではないかと考えております。

ただ、どうしても今後も新しい問題が発生するといったこともございますので、その際にはフィードバックを受けたものに対しては都度競技本部内で検討し、公認大会申請団体と協力しながら改善に努めていきたいと考えております。

また、最後の「今後の方針を含む検討結果の過程について」というところでは、本件については、これは理事会の判断というのではなく、あくまで競技本部内での検討事項であり、再三の繰り返しになりますが、昨年の回答は前本部長の個人的な見解となっております。

検討結果としては、競技本部内で改めてビデオ撮影の可否、ではどうするかというところ

で判断をさせていただいて、ルール遵守の方向に持っていき、SAT から公認大会に派遣する TD の方にもその点をよく遵守していただいて、各大会の運営に当たっていただいたという形になっております。

多少前後した部分はございますが、以上で回答とさせていただきます。

○和田議長 三鷹市スキー連盟様のほうからこの件について何かございましたらよろしく御発言をお願いいたします。

○三鷹市スキー連盟（辻口団体長） 49 番・三鷹市スキー連盟ですけれども、まず申し上げたいのは、前任者の牧田競技本部長が言った個人的見解ということなのですが、本人が辞任している中で都合の悪いことを前任者に押しつけて、欠席裁判にするのはやめてください。山崎本部長も当時競技本部の担当理事であったわけで、もし個人的な見解を言って暴走しているのだったら、止める立場にあったのだと思います。現にその本部長がいない中で全部これは前任者が悪いことだというのは、完全に欠席裁判だったと思います。

これは本当に申し上げたいのですけれども、皆さんは個人としてその壇上に座っているわけではなくて、団体の役員として座っているのです。その発言というのは団体を代表しているのです。だから、個人的発言というのは、仮に飲み屋の席であったとしても、公の場では基本的にはないですよ。だから、皆さんが発言されたことというのは、例えば団体の競技本部長なり、会長なりの立場として発言されたことなので、継続性を考えていただきたいです。例えば今競技本部長が、「去年はこうやって言ったけれども、僕は全く意見が違うから」と翻されてしまったら、何の継続性もないです。だから、基本的に本部長が発言されたことは次の方も踏襲していただかないと、組織として、成り立っていないということになってしまうので、そこはしっかりやってください。

その前提で申し上げますと、今回の日本アルペンさんの大会についてですが、3 点改善した点というのを挙げられていまして、全面的にスキー場のバックアップがあったと。それから、旗門員とかスキースクールのスタッフがやっていて、経験の少ない方にも都度フォローに回っていたと。それから、都連の専門員も参加していたと。あとは、抗議ルートも再確認されていたと。

これが今回改善された理由だということで間違いはないですよ。よろしいですか。

ということは、これは来年も続けないと改善されないということになるので、来年も全く同じように続けていただけるという理解でよろしいですよ。つまり、これが一個でも欠けるとということは改善されないということになってしまうのですよ。そこはいいですかというのが1つ目。



2つ目は、結局のところ、もう一つ抗議要件をもうちょっと緩和できないのかということも依頼したかと思えます。

現実的に1人で参加している人に、抗議のためにビデオを持ってこいという、証拠を持っていくのは不可能なのです。確かにルールかもしれないけれども、FISの大会ではないから不可能なのです、スタッフがいないから、1人で参加しているので。これをもうちょっと選手側に寄り添った形で抗議要件を緩和するとかできないんですかね。結局1人で参加している人には抗議するなどと言っているのとほぼ一緒ですよ、抗議できませんと言っているのと一緒ですから。これはもうちょっと救済できないのかをお伺いしたいです。

○山崎競技本部長 すみません、前半の件に関してはお叱りいただいてもやむを得ない内容かとは思いますが、これは言い訳になってしまうかもしれないのですけれども、回答するときの打合せでも、実際にはビデオ撮りについては実施するという言及はしないようにという話を前本部長ともしておったのですけれども、当日されてしまったというのが実情というところで、私のほうも不適切ということで、大変失礼いたしました。

次の御要望ということで、「改善された点」のところになりますが、こちらは日本アルペン様のほうに継続していくように要請をしていきます。実際に競技本部の専門員の参加、その部分というのは今後も継続していきますし、あとはクラブ内から専門員に出ていただいて、そういった経験を積んでよりよい運営にさせていただくとか、そういったところも含めての今後の日本アルペン様とのやり取りになってくるのかなと思っております。

また、3つ目の点についてなのですけれども、これは私も実際競技に行ってみて非常に感じたというところで、個人参加は確かに実際いらっしゃるのですけれども、競技会というのはチーム参加というのが前提になっています。教育の大会とかだと選手会ということで、選手個人を対象にして実施しているような説明会というのも、あくまで競技会、特にアルペン競技においてはチームキャプテンミーティングという形で、チームキャプテンのみが参加をします。それは、個人のチームであっても、団体のチームであっても同様というところになってきますので、例えば個人参加の方にそちらを優遇するよというような措置を取れば、では団体で準備しているところをどうするのかということも逆に問題としては出てくるかなと思っておりますので、今は個人参加というよりも、あくまでチームとして参加していただいているという前提で競技会というのは運営しておりますので、そこに対する緩和というのは発生しないものと考えております。

○三鷹市スキー連盟（辻口団体長） 1番目の質問については、来年以降も日本アルペンさんには同じような運営体制で実施していただけるということでお約束いただいたと、これは議

事録にも記載しておいてください。

それから、2つ目の抗議要件なのですが、やはり本音と建前があって、実際 SAJ でもなかなか FIS のルールをそのまま準用できないことについては SAJ の特別ルールというのをつくっていますよね。

現実的に SAT の中で、やはり個人で参加している人というのは多いと思うのです。特に今は競技で参加する人口が少なくなっていますから、どんどん仲間が減っている中で、どうしても友達と一緒にいけないとか友達も選手で滑っているからビデオを撮れないということは当然にあり得るわけなので、そこは SAT の特別ルールというのを別につくっても悪くはないのかなと思います。

それに抵抗する理由が私には全く分からないのですけれども、抗議ルールを変えると誰が損をするんですか。全く意味が分からないです、正直言って。選手にとってもうちょっと寄り添うようなことになる気がしますけれども、誰にとって得なのかが全く分からないので、そこは再度検討していただきたいと思っています。

以上です。

○和田議長 検討していただけますでしょうか。

○山崎競技本部長 検討はしますが、現状では非常に難しいものと思います。例えば呼びかけるとかということができたとしても、ではビデオがなければ、それが確認できなければ、結果として抗議を受け付けたとしても、旗門員であり、そういったジュリーメンバーの判断を覆すものというのが準備できなければ、検討するものというのが準備できなければ、結果としては抗議を受け付けただけになってしまうと思うのです。実際に抗議を受け付ける、それをジュリーメンバー、旗門員が見たものを訂正する、覆すための証左というのはいずれにしても必要になってくるのではないかと思いますので、実際に検討したとしても、ではその部分は御本人が抗議された方の意見を全て押し通すのかどうか、覆すものがなければ結果としてはジュリーメンバーの内容を信頼するしかないという結論になるのではないかとは思っていますので、一応検討はいたします。ただ、今の中だと非常に難しいのかなとは思っています。

○和田議長 この件についてはよろしいでしょうか。

続きまして次の要望ですが、やはり競技本部、団体ナンバー49 番・三鷹市スキー連盟様、団体長名・辻口様、この件についても補足がないということでよろしいでしょうか。回答のほうから先に差し上げたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、競技本部長、よろしく申し上げます。

○山崎競技本部長 「競技本部における赤字事業削減の要望」というところで、すみません、

御指摘の点については昨年から評議員会も含めて御指摘いただいている点で、競技本部としても急ぎ検討していかなければならない、ここに書いてあるとおりなのですけれども、問題と考えております。ただ、どうしても赤字のところが多くなってしまうと、普及の観点というところで、ジュニアの行事などはやはり削減が難しい部分というのも正直あるかなとは考えております。

ただ、その中でも実際行事の中は精査させていただいて、削減できるものは削減、場合によっては事業の見直しというのも含めて削減という形と、あとは東京都スポーツ協会から頂いている助成金を今フルに活用できていないという現状もございますので、そういったものをまずはフルに活用していくと。

あとは、他県連との協力です。ここでも御指摘いただいている、特に「南関」という名前のついている行事、小さなところで、役員を1人2人派遣してくれというところかもしれないですけれども、千葉や神奈川の県連にもそういったことは要請して、費用の削減に努めるということを検討していきたいと思っております。

○和田議長 この件に関しまして、三鷹市スキー連盟・辻口様、よろしく願いいたします。

○三鷹市スキー連盟（辻口団体長） 私が作った資料を補足させていただきますと、表1を見ていただきたいのですが、都連全体の経常損益というのが一番上に書いてあって、2022年度は600万円ほどの赤字で、2023年度は1,200万円の赤字なのですね。これは、収入に対する割合で言うと、2022年度は5%のマイナスで、2023年度は10%で、倍になっているということです。

お金に色はないので、ほかに総務本部もありますが、仮に教育本部と競技本部の2つだけ表示していますけれども、教育本部というのは2022年度では全体で見ると1,000万円の黒字、23年度でも1,000万円の黒字なのですが、競技本部というのは2022年度も600万円の赤字で、2023年度は800万円の赤字で、2022年度について申し上げますと都連全体の赤字は全部競技本部ですよ。2023年度においても3分の2は競技本部が赤字をつくっていますね。

では、今度は表2を見ていただきたいのですが、そのうち中身は何なのということなのですが、これは参加人数です。もともと計画されていた人数と実績を比較したもので、それに損益を当てているのですけれども、2022年度も、2023年度も強化事業というのは大幅に赤字で、2024年度の予算、これはまだ決算が閉まっていないのであくまで予算段階ですけれども、これだけ強化事業は赤字だったりするのに、さらに例えばアルペンの雪上トレーニングが29万円の赤字だったのが、予算段階から200万円の赤字と出ているんですよ。それから、陸上トレーニングでも、64万円の赤字が110万円の赤字なのですね。

要は、赤字と分かっているのに、それをさらに予算の段階から積んでくる感覚が私には全く分かりません。例えば南関ブロックのよませは、78人しか参加していないのに130万円の赤字ですよ。これは1人2万円ですよ。だから、参加費を1人2万円上げないとこれは黒字にならないのですね、さっくりと言うと。そういう中なのでこの話を持ち上げさせていただきました。

それで、趣旨を誤解しないように申し上げたいのですけれども、赤字の事業を全部やめてくれと言っているわけではないのです。やっていただいて全然構わないのです。やっていただいて全然構わないのですけれども、収支のバランスを取っていただきたいということです。例えば競技のほうは大会が多いと思うのですけれども、教育のスキー技術選手権の大会は参加費が1万1,000円。オープンマスターズも、Iが1万円、IIが1万1,000円ですけれども、競技の大会は、東京都選手権は1種目6,000円、国体予選も6,000円で、半額ぐらいですよ。もちろん日程も違いますし、使う場ももちろん違うから単純に比較できないのは分かるのですけれども、あまりにも金額感が違い過ぎる。倍違う。だから、収支のバランスを取るようにしていただきたいというのが趣旨ですね。

先ほど競技本部長がおっしゃっていたジュニア事業。ジュニア事業とまとめてしまうと、「ああ、そうかな」と皆さん思うのですけれども、ジュニアでも普及活動する事業と強化事業というのはちょっと色合いが違うと思うんですよ。普及活動はまさに今後のスキーヤーを増やしていくための事業だから当然赤字でもやるべきだと思いますし、それが都連のそもそもの存在意義でもあると思うので、それはどんどんやれば良いと思うのですけれども、強化事業というのは特定の個人に予算をつけるようなことが結構多い。特に小中学生からスキーをがまんやっているおうちというのはほとんどが小中学校から私立に通う御家庭です。だから、毎年SL、GSの板を20万、20万、40万円かけてウエアまで全部そろえてしまうような家がほとんどです。そのぐらいお金がざくざくあるおうちに対して1万2千の補助金を毎回親に出す必要があるのかと私は思っています、正直言って。であれば、ある程度そこは強化事業をやった上で、その御家庭に御負担をお願いしたいというのも一つの案じゃないかなと思っています。

特に、ここには紙面の都合で書いていませんけれども、ノルディックとかフリースタイルの事業はひどいです。ここに書いていないので今申し上げますけれども、ノルディックは22年の陸上練習会というのが80人の計画です。でも、参加したのが12人です。23年度も同じく80人で計画したのですが、たったの15人です。実際の参加率は19%ですから、予算の段階から5倍多く見積もっているのですね。5倍も見積もるといえるのはさすがにやり過ぎじゃな

いかなと思います。それで予算を取って、実際事業をやったら大赤字でしたと言われても、それはそもそも見積りがおかしいですよという話だと思うのです。

フリースタイルも、20人のところが6人です。6人というとはほぼ個人を特定して補助金を出しているものなので、正直言って今のこの都連の財政では厳しいじゃないのかなと思っています。

今ここに競技本部長が挙げられた中には参加費の値上げというのは書いていませんけれども、そういうのも全部踏まえて収支のバランスを取っていく努力をしていただきたいと思っています。

○和田議長 その件について、競技本部長、いいですか。

○山崎競技本部長 今年も予算を見ていて、この参加人数のところ、実際実人数からかけ離れたところというのは早急に見直しをかけさせていただいておるところでございます。

また、強化というのと普及というのと競技の場合はやはり同時になってしまっている部分があり、また御家庭の事情というのはこちらではかる部分というのはないと思いますが、あくまで参加するジュニアに対してそこは均等にといいつもりで行っていくのと、あと値上げの件もそうですね。そこも全体を見て、本当にバランスが取れないようであれば検討していかなければならないところかなと思っています。

あとは、例えばモーグルの行事とか参加人数が少ないよと。どうしても早い時期に実施している関係で雪がなくて、なかなか参加者が来ないとか、あとはやはり宣伝もしていない部分というのもあったりしますので、参加者が多少増えていくように宣伝とかも含めて収支のバランスを取っていくというところでも、一人でも参加人数が増えていくような努力もしていきたいと思っていますので、今後ともどうぞ御指導のほどをよろしくお願いいたします。

○和田議長 収支バランスというお話でございますが、この件について、財務担当の本橋常務理事から一言説明させていただきたいと思います。

○本橋常務理事 財務・会計の本橋です。着席で失礼いたします。

確かに辻口様の言われるとおりでありまして、今この競技のほうは確かに非常に厳しい状況です。

ちょうど理事会では来年度に向けてこの辺りのところを予算組みしております。今辻口様から言われたとおり、やはりそういうところをしっかりと精査して、必要なものは必要で、赤字でも継続する、でも不要なものは、事業仕分けじゃないですけども、切っていく。その辺の検討もしているところでございます。

ただ、急激な参加費の値上げとかではインパクトがでかいということも、いろいろ理事

会の中でも意見が出ています。その辺も含めて今来年度の予算を組んでおりますので、理事会においても辻口様が言われたことは検討しているということを報告させていただきます。

○和田議長 三鷹市スキー連盟様のほうからございますか。

○三鷹市スキー連盟（辻口団体長） 御検討いただいているということで、ありがとうございます。ありがとうございました。

ちょっとだけ補足をさせていただきますと、やはりいろいろな方とお話ししている中で、競技の人はポイントを取らないと次のレースで良いところで滑れないから、ポイントを取るためにレースにはやはり出なければいけないのだとか、いろいろ多分言いたいこともあると思うのですけれども、例えば教育の有資格者の人も、資格を維持するためには研修会に出ないと資格が維持できない、その状況は同じですね。それから、教育は研修会があるから黒字だよねというのもあると思うのですけれども、単純に価格設定の問題だと思います。つまり、教育の事業は価格設定が高い。はっきり言って、かかっているコストよりも多く払い過ぎということだと思います。だから黒字になっているだけであって、競技の大会も価格設定を変えれば収益事業にはなるのだと思います。だから、教育は収益事業だけど競技は赤字事業でしょうがないよねというのは、ちょっとそれはおかしいかなと思っています。

どういうやり方でも収支のバランスを取っていただければ、それはそれで構わないと思うのですけれども、評議員会でも予算案というのは報告事項で、別に承認事項ではないですし、決算も報告事項であって承認事項ではない。つまり、今の理事の方々が全て自由に予算も決められるし、決算も締められる状況です。ということは、誰にも承認を得る必要がないので、皆さんがやったことが全て皆さんの責任になるということになりますので、そこら辺はしっかり赤字になりにくいように、今まで私どもの諸先輩方に蓄えていただいたお金をなるべく減らさないように努力していただけるようお願いしたいと思います。

○和田議長 辻口団体長様が言われたこと、全くそのとおりだと思っています。先ほど財務担当理事のほうから御説明が一部ございましたが、来年度の予算組みについてバランスを取るために非常に苦心をしているというところもございますので、またその辺は御報告させていただきながら皆様の御理解を得ていかなければいけないなと思っていますので、どうぞその節はよろしく願いいたします。

それでは、続きまして教育のほうに変わりますので、議長を副議長のほうに代わりたいと思います。よろしく願いいたします。

○長谷川副議長 長谷川が次を引き受けます。

引き続き練馬区スキー協会・大野様より、「競技会での年齢別組分けを 100 歳まで細分化」

ということで要望していただいておりますので、競技と教育の両方に来ているので、まず競技本部長のほうから回答をさせていただきます。

○山崎競技本部長 練馬区スキー協会様から頂いた「競技会での年齢別組分けを100歳まで細分化」というところなのですけれども、こちらのほうは実際に理事会でもやはり話が出ております。実際今は80歳で特にクラブ対抗は切っているというような形になっておりますので、ほかの各県の大会でそういったものも確認をしつつ、何よりも安全面の問題というのも考慮に入れながら前向きに検討していきたいと考えております。

ただ、実際に安全面を含めて100歳まで細分化するのか、またちょっと違った年齢で区切るかというのは、検討の結果の判断とさせていただきます。

○長谷川副議長 100歳まで組分けということで今本部長のほうから回答がありましたけれども、いかがでしょうか、大野様。練馬区スキー協会の大野様、何かあれば。よろしいですか、この回答でよければ、同様な質問が教育のほうに来ていますので、今度は教育本部長のほうから回答させていただきます。総合的に何かあれば、同じ質問なので終わってからでも御意見があれば伺いたいと思います。

○金子教育本部長 マスターズ技術選に関しては、80歳以上の組別を5歳ごとに分けるということを検討したいと思います。

90歳以上に関しては安全面などの配慮が特に必要かと思っておりますので、それに関しても安全面、事故などのことを考慮した上で検討していきたいと思っております。

○長谷川副議長 練馬区の会長の大野様、これでよろしいでしょうか。何か御意見等があればお聞きします。

○板橋区スキー協会（野口団体長） 板橋区スキー協会会長の野口と申しますが、スキー人口が高齢化している中で興味ある内容を盛り上げていくという面ではこの意見は大変素晴らしいと思いますが、取りあえず80歳以上を分けるとしますと、検討課題になっておりますけれども、例えば85歳を設けるとか85歳または90歳以上とか、この2つを入れるか・入れないかということになると思うのですけれども、その辺も前向きにできれば検討していただきたいと思っております。

○長谷川副議長 その辺の検討は、どちらでも構いませんが、お答えをお願いします。

○金子教育本部長 競技本部も、教育本部も、共に80歳以上の組を5歳ごとに分けるということに関しては前向きに検討したいと思います。

○長谷川副議長 295番のドンスキークラブの木津川さんのほうからの御質問です。回答がここに書いてありますけれども、私のほうから回答させていただきます。

この件は2年前の総務部長の時にご回答をしました。ここでも会員数の件でありまして、臨時評議員会で議案として提案して、臨時評議員会で議決を経て登録人数は15人に削減して、現在に至っているところです。

登録会員数を変更するとなると、加盟団体規則の改正をしなければなりません。加盟団体の現状を踏まえながら、皆さんの御意見を聞きかなかと解決しない問題と思います。検討はしますけれども、お時間が要することと思います。

よろしくこのようなご回答でよろしいでしょうか。ドンスキークラブの方はいらっしゃいますか。要望を出された方が欠席のようなので、このよう回答に致します。

続きましてZスキークラブからの御質問です。

これもやはり会員数の削減等ありまして、4万円の負担金はクラブとしてはかなりの負担になりますので、負担軽減を要望しますとのご意見です。デジエントリーするときの振込手数料がかなり取られるというようなこともここに書いてあります。

これも前団体と同じようなことなので、やはりクラブの登録団体数等も関係していると思います。

それから、負担金なのですけれども、今4万円頂いています。414クラブありますので、そうするとこの収入は1,600万円ぐらいの収入です。例えば負担金を3万円にすると、約1,200万円の収入で、400万円の減になると、その収入をどこから集めるかというようなことにもなってきます。登録費の800円をもう少し値上げしないとマイナス分の充当がなかなか難しいと思います。先ほど辻口さんが言ったような、いろいろな部分の見直しをして下げた場合、この下げた分の収入をどこかで得ないと、なかなかスキー連盟の運営が難しくなると思います。

これも、検討課題の一つで、やはりクラブ会員の方が減ってくると、多分4万円を人数割ったときにクラブ費として1人幾らというようなことになってくるのかなとは思いますが、それもやはり人数見合いのところでありまして、なかなか団体の減少とか、クラブ会員数が減れば会費等の回収もなかなか御苦労されていると思います。この辺も併せて、先ほど言ったような人数、負担金の問題等々、クラブの存続に当たりましていろいろな課題がこれからもっと出てくるのかなと思っております。

これを踏まえながら、やはりクラブの存続に対して、先ほどの人数の問題、それから負担金の問題と併せながら執行部としては検討してしたいと思っておりますので、何かについて情報提供していきますので、よろしくお願いいたします。

Zの団体長の方、いらっしゃいますかね。いたら何か補足があればお願いします。

○Zスキークラブ（梅原団体長） Zスキークラブの梅原です。



引き続きこの件については御検討をお願いしたいということで、よろしく願いいたします。

○長谷川副議長 分かりました。ありがとうございます。

皆さんの協力を得て、何とかクラブが存続するようにしたいと思います。やはり都連としても、これからの先の未来に向かっていろいろ事があると思いますけれども、よりよい都連存続を図りながら対処したいと思いますので、御協力をぜひお願いいたします。

○東京都中学校体育連盟スキー部（村本） 東京都中体連の代理で来ています村本と申します。細かいことになってしまって恐縮なのですが、先ほどの予算要望に関する質疑のやり取りの中でちょっと誤解じゃないかなと思われる点があったので、指摘させていただきます。

教育本部と競技本部の行事の価格設定がおかしいという意見があったかと思うのですが、6,000円と書いてあるのは1種目6,000円、1日6,000円みたいな形なので、今SATのホームページに載っている、競技本部の例えば技術選がたしかに11,000円になっています。11,000円と比べて全然金額が違うということにはならないと思うのですが、技術選は2日間で1万1,000円、競技も1日6,000円、1種目6,000円、ほぼ同程度だと思うのですが、その点だけ確認をしたいと思ひまして発言させていただきました。

○長谷川副議長 そのとおりです。教育本部はそのような設定で、競技本部は1試合6,000円です。2つ出れば1万2,000円の設定です。

ただ、どこが違うかということ会場費です。去年から会場費がかなりの値上げをしています。それに見合うには、やはり6,000円で本当にできるか・できないか。例えば大会としては、ユース大会だろうが、大人の大会だろうが、会場使用料は同じです。1日80万といえは80万です。100万といえは100万です。それに見合うためには、やはりさっき言った、1試合6,000円は6,000円で、2つ出れば1万2,000円なのですが、1万2,000円はそのまま入ってきません。なぜか。2つ出ない方もいらっしゃいます。例えば100人が全員2つ出れば、12,000円収入になりますけれども、そうではない方もいらっしゃる。1試合出てという形で。

それが全部、競技本部の収入になるとはなかなかならないので、その辺を踏まえながら、本橋会計担当が言っているように、そして山崎本部長も言っているように、先ほど辻口さんが言われたようにいろいろな面で皆さんに御負担をかけないとなかなか赤字体制が脱却できないかなと思っております。

競技も、教育も、行事に参加する人たちのご負担を平等にして、赤字を出さないような運営スタイル、経営を図っているところです。現在、予算・事業計画を7月の評議員会には報

告をしなければなりませんので、毎年赤字を出しているとはよくないので、その辺は今検討している最中ですから、中体連の方にも御理解いただきながら、競技と教育もお金にそんなに差はないよということで回答させていただきます。

○東京都中学校体育連盟スキー部（村本） 私は、金額そのものが高いとか低いとかということをお伝えたいわけでは全くなくて、教育と競技で全然金額の感覚が違うという点、そういう御意見に対して、そこはちょっと誤解だなということを確認したくて今発言させていただきました。今後もし必要であれば値上げもやむないかと思えます。

この細かいことで今発言させていただいたのは、先ほど三鷹市のスキー連盟の会長もおっしゃっていましたけれども、皆様は壇上にいらっしゃるのです、そこで発言されたことというのは全面的に公に発言したものとみなされるのが当然かと思うのです。

先ほど私がちょっと気になったのは、予算に関する要望の中で、おっしゃることは全面的にそのとおりですという発言が2回それぞれ別々の方からあったかと思うのですけれども、今の誤解が含まれている中での全面肯定だったので、それはまずいのではないかと考えて発言させていただきました。御検討いただければと思いますけれども、その全面肯定が不適切だったと考えるのであれば、その分は議事録の段階で修正等々をお願いしたいと思います。

○長谷川副議長 議事録には議長、副議長、それから議事録署名人の方に議事録の署名・捺印をしていただいておりますので、もし議長、副議長並びに議事録署名人の方にそのような意見をつけていただいて、御本人に確認をして、本人の確認がないのに議事録から削除することも難しいので、そこの御理解をいただければよろしいかなと思えます。

○三鷹市スキー連盟（辻口団体長） 49番・三鷹市スキー連盟ですけれども、正直言って1万1,000円と6,000円の話をしようか・しまいか迷ったのですが、御指摘いただいたとおり、日付が違うし、日数が違うしというのは冒頭私も枕言葉としてつけさせていただいて、全く同じではないので比較は難しいのですけれどもというのも申し上げているのです。

なので、もし御気分を害されたのだったら大変申し訳ないのですけれども、やはり技術選でも、決勝まで残って翌日までいられる人と、場合によっては1日目が予選で、2日目に残れない人というのは1万1,000円を1日で使うことももちろんあり得て、それは競技のスタイルによって多分使い方というのは変わってくるので、単純には比較できないと思うのです。

私が申し上げたかったのは、会員費を皆さんは800円払っていて、そこは平等なのですけれども、やはり参加する行事というのは違う中で、必ずしもコストよりも多めに払っている人と少なく払って済んでしまっている人がいるというのは非常に不平等なのではないかなと思っていて、端的に言うと、競技本部の事業と教育本部の事業では同じように会員が参加する

のにもかかわらず、そこら辺が不平等な価格設定になっている気がしたので申し上げました。

ですので、同じ会員ですから基本的には同じような負担の割合になるように修正いただきたいというのが趣旨でございます。

もう1点だけ、すみません。

今の中体連の方からの御指摘が議事録に残れば、恐らくその趣旨というのは議事録上もちゃんと残ると思いますし、長谷川専務のおっしゃったことも多分残ると思いますので、議事録全体を通して多分それは後から読んだ人も御理解されるのではないかなと思うので、私は個人的には議事録はそのまま議事録として残せばいいと思います。

○長谷川副議長 議事録は皆さんの御意見を反映したのが議事録ではないかと思っております。

○東京都中学校体育連盟スキー部（村本） 何度もすみません、中体連の村本です。

気分を害しているとかそういうことも全くなく、お金のそういうことを言いたいわけではなくて、私は三鷹市スキー連盟さんの御意見はそのままで全然構わないと思っているのです。

ただ、私がちょっと疑問に思ったのは、壇上の方が全面的に肯定したというところにちょっと疑問を感じていて、全面的に肯定してしまうとその発言の中身の細かいところの隅々まで全て肯定したことになってしまうので、その危険性についてお伝えしたくて発言させていただきました。

ですので、私がさっき修正と申し上げたのは、壇上の方の全面的肯定の部分に対して修正をしたほうがいいのではないかという意味で申し上げたのです。

○和田議長 全面的肯定という表現をされるといろいろ問題があるかもしれませんが、要は非常に良い御意見だったなと思って、すばらしいなと思って言ったというふうに理解しております。この件についてはそれでよろしいでしょうか。

○長谷川副議長 貴重なご意見、ありがとうございました。

加盟団体長会議は皆さんから御意見を頂くのがこの会議の主たる目的なので、大変有意義なご意見を頂きました。

何かほかに意見がなければ次に入りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

#### その他 役員等改選に伴う選挙について

○長谷川副議長 今年東京都スキー連盟の役員並びに評議員改選の年です。10月に定時評議員会にて選挙を行います。

2つの選挙が同時期に開催されます。選挙関係書類が、選挙管理委員会より加盟団体長あてに

役員立候補届・評議員立候補届の用紙が送付されます。立候補様式には加盟団体長さまの捺印が必要なので、書類のご確認をよろしくお願いいたします。書類が2つ送付されるとどちらの選挙だのかが判りづらい場合には事務局にご連絡をください。評議員選挙の投票にあたって団体長の必要書類を同封してください。無効投票にならないようにお願いします。

#### 閉会の辞

○長谷川専務理事 本日は日曜日の午後からご参加いただきありがとうございます。

貴重な御意見等を頂きましたので、次年度の行事に意見等を取り入れて、事業計画、予算書を編成して、7月の臨時評議員会にはご報告をしたいと思えます。

長い時間、どうも御苦勞様でした。ありがとうございました。

#### 閉会宣言

○栗飯原総務本部長 加盟団体長会議は皆様のスムーズな議事進行にご協力ありがとうございました以上をもちまして閉会とします。

午後2時00分 閉会

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長、副議長及び議事録署名人は下記に署名、押印する。

2024（令和6）年 8月14日

一般財団法人東京都スキー連盟

議 長

和田 守義



副 議 長

長谷川 春彦



議事録署名人

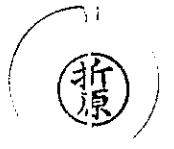
折原 正英



議事録署名人

佐藤 祥三





〒102-0093

東京都千代田区平河町 1-4-15

平河町小池ビル

一般財団法人 東京都スキー連盟

Tel. 03-3262-2491

Fax. 03-3264-6540